

情報を伝えるプロに聞く

地域を元気にする記事を大切に、 しっかりとした情報を正しく伝えること

毎月広報しょうばらを読んでいます。が、情報紙としてかなりしっかりと作られている印象です。私たち新聞記者は記事を書くのが仕事ですが、多くの業務を持ちながら広報紙を作成されているのは率直によくやられていると思います。

内容を見ると、行われた過去の記事が多いように思いますので、終わったものよりもこれから行われるものを掲載したほうが、より読者に興味を持ってもらえるのではないのでしょうか。

我々地方紙はローカルネタが命です。そういった意味で、各地域の情報を広く取り上げているところは良いで

すね。共通して言えることは「正しい情報を伝えること」、そして「しっかりと地元のことを伝えること」が大切です。記事は、「100を聞いて1を書く」と言われます。それだけ取材が大事です。私にも過去、誤った内容を掲載し指摘を受けた苦い経験があります。そのときは取材が足りなかったと反省しました。

行政情報も大切ですが、地域の人が元気になる記事を大切にしてほしいですね。それと、市の職員がもっと紙面に立たしてほしい。そうすることで、市役所に親しみを覚えてもらえると思います。

中国新聞社 庄原支局長
もりした けいさん
森下 敬さん

Interview



ボランティアグループ「声の友」



市内女性16人のグループ。
庄原市ふれあいセンターを拠点に活動している。

ご存知ですか? 「音声広報」
目の不自由な人のために、音声広報を作成し届ける活動を30年以上続けているグループがいます。
ボランティアグループ「声の友」は、毎月広報しょうばら発行後に集まり、音声広報を作成しています。
収録作業は、専用の録音機を使ってカセットテープに声を吹き込んでいきますが、ページや内容ごとにメンバーを入れ替えながら、約4時間かけて広報しょうばらを読み上げ収録します。「聞く人ができるだけ聞きやすいように」と、録音と再生を繰り返しながら、納得いくまで収録作業を進めます。収録し終えたテープは、利用者の人数分ダビング(複製)し、利用者のもとへ郵送。収録は広報しょうばらのほか、「市

より親しまれる広報紙へ
皆さんの声をお寄せください
広報紙で詳しく説明したつもりでも、伝わらなければ理解は得られません。ましてや、読んでいただかなければ出す意味がありません。広報紙は読者の皆さんの声によって作られます。
今後も皆さんが読んでみたいと思える紙面づくりに努めていきます。ご意見ご感想を情報政策課広報広聴係(☎0824-73-1159)までお寄せください。

0824・78・2620)まで。
また、メンバーのほとんどが60歳以上と高齢化が進んでいるため、一緒に活動してくれるメンバーを募っています。問い合わせは、山下明子代表(☎

議会で「社協だより」も行って利用者は「いつも楽しみにしている」読み上げる声(人)が変わるので「たいくつせずに聞ける」と好評です。
長年続けてきた活動ですが、現在は11人の利用にとどまっています。代表の山下明子さん(峰田町)は「おそろしく目の不自由な方はもっと多くいらっしやると思う。利用料は無料なので、文字を見るのがしんどくなってきたという方も、ぜひ利用してもらいたい」と話しています。



録音作業の様子

広報しょうばら 創刊100号

毎月、皆さんのご家庭にお届けしている市の情報紙「広報しょうばら」。合併した平成17年4月に創刊し、今月で100号を迎えました。今回は、「広報紙」について、少し目を向けてみたいと思います。



記念すべき創刊号の表紙

全16ページ。巻頭は新生庄原市の出発に期待する市民の声を掲載した

全市民に向けて 唯一の情報伝達ツール

「広報しょうばら」は、毎月1回市が発行している市民向けの情報紙で、市の施策や動き、市内で起こる出来事やイベントなどを、紙面でお知らせしています。市の情報は、行政文書やホームページなどでもお知らせしていますが、その中でも「広報しょうばら」は、全市民に届く唯一の広報媒体です。

デジタル情報化社会に なぜ広報紙なのか

現代は、スマートフォンやパソコンなどインターネットを利用して情報を入手する時代です。机の上で簡単に世界各地の情報を入手できますが、それは自分から情報を得ようとしなければ手に入りませんし、何よりインターネットが使えない環境が必要です。反面、広報紙は各世帯に必ず届くので、家のどこかに置いてあれば手にして読んでもらえる可能性があります。また、その月その月の情報をまとめているので、いつ何があったかというのを把握するのにとても重宝します。市役所の公文書は保存期限が決まられ、期限を過ぎると廃棄されますが、広報紙は永久保存文書として後世まで残され、さまざまな形で活用されます。

市民と行政をつなぐ一番のパイプ役が 「広報しょうばら」だと思います

増田 敏明さん(東本町)

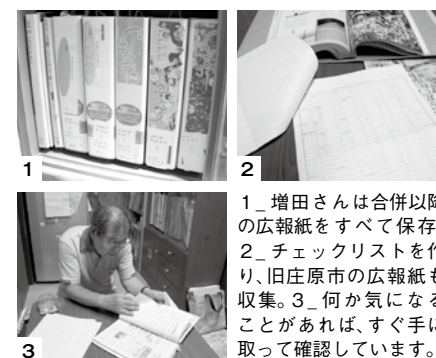


Interview

広報しょうばらは市の歴史書として一番だと思います。毎月欠かさず発行されているので、市で起こった出来事が月の流れで把握できますし、情報が凝縮されているので市の歴史を知るのにも役立ちます。過去の広報紙は大切に保存し、興味を持った記事があれば広報紙を見返して、当時と今の違いを確認するなどしています。

広報しょうばらはうまく構成されていて、よくできていると思います。私も自治振興区の役員として振興区だよりを担当しているのですが、広報紙を作成される苦勞がよく分かります。地域のことがわかるカメラレポートがいいですね。写真が白黒だとなかなか伝わってこない部分があるので、ぜひカラーページを増やしてほしいですね。

市民と行政をつなぐ一番のパイプ役は広報紙だと思いますので、今後も頑張ってください。



1_増田さんは合併以降の広報紙をすべて保存。
2_チェックリストを作り、旧庄原市の広報紙も収集。
3_何か気になることがあれば、すぐ手に取って確認しています。